

八月の遺書 能島龍三短編小説集

能島龍三 著

日本の戦争体験を、さまざまな人々の視点を通して加害と被害の両面から描く短編集。特攻隊員たち

が理不尽な任務に苦悩する「青の断章」、南京大虐殺に関与した元兵士が体験を語り始める「碧落の風に」など8編。表

題作は、病院で死去した祖母から託された封筒の束を主人公の医師が読み、祖母が戦中、生体解剖にかかわっていたことを知ります。相談相手となった同僚の中国人医師は「日本人はあの戦争で、他国の犠牲者のために悲しんだか」と問います。（本の泉社・1100円）



ほん
だ
な